社会福祉連携推進法人ジョイント＆リップル

令和７年度事業報告について

法人名	社会福祉連携推進法人ジョイント＆リップル
主たる事務所	熊本市中央区黒髪５丁目２３-１
設立日	令和５年３月３日
承認日	令和５年５月９日
理事長	小笠原　嘉祐
社　員	社会福祉法人リデルライトホーム NPO 法人おーさぁ 社会福祉法人わくわく 社会福祉法人ひまわり福祉会 社会福祉法人青いりんごの会 社会福祉法人愛育学園

1. はじめに

社会福祉連携推進法人の制度化以降、令和８年４月現在における全国の認定数は３８法人に留まっております。これらは地域の福祉基盤を支える新たな仕組みとして期待されつつも、全国的な普及や具体的な成功モデルの確立という点においては、未だ発展途上の段階にあります。

このような状況下において、我が国の先陣を切って設立された当法人「ジョイント＆リップル」は、独自の「分野を超えた連携」「ＤＸの推進」「地域共生・災がい対策」を三軸に掲げ、全国のベンチマーク（指標）となるべき革新的な事業を展開してまいりました。

令和７年度は、これまでの連携基盤をさらに深化させ、単なる法人間連携に留まらず、教育機関、地域住民、そして行政を巻き込んだ「持続可能な地域共生社会の具現化モデル」として、全国へ発信できる確かな成果を上げることができました。以下にその主要な活動を報告いたします。

2. 社会福祉連携推進業務

i. 地域福祉の推進に係る取組を社員が共同して行うための支援
ii. 災がいが発生した場合における社員が提供する福祉サービスの利用者の安全を社員が共同して確保するための支援
iii. 社員が経営する社会福祉事業の経営方法に関する知識の共有を図るための支援
iv. 社員が経営する社会福祉事業の従事者の確保のための支援及びその資質の向上を図るための研修
v. 社員が経営する社会福祉事業に必要な設備又は物資の供給
vi. 各種イベント、講演、セミナーの企画、開催、運営管理

3.　令和７年度 主要事業活動報告

① 高齢者施設と就労継続支援Ｂ型事業所の「多分野協働モデル」

当法人の核心的取り組みである、分野の垣根を超えた業務委託および交流事業をさらに発展させました。

- **給食・調理業務の新規委託：** 令和７年度は、社会福祉法人リデルライトホームにおける利用者への食事提供を、従来の「委託型」から「完全調理品」へと移行しました。これに伴い、デイサービスの昼食調理・提供業務を新たに就労継続支援Ｂ型事業所（以下、Ｂ型事業所）へ委託する仕組みを構築しました。これにより、高齢者施設側の深刻な人手不足解消と、障がい福祉側における安定的かつ高い工賃の確保を両立させる、先進的な「共同経営・業務効率化」の仕組みを実証しました。
- **世代間・障がいを超えた文化的交流：** 特別養護老人ホームと地域の幼稚園との交流事業において、Ｂ型事業所の「陶芸教室」を組み込みました。高齢者、未就学児、そして障がいのある利用者が「陶芸」を通じて自然に触れ合う機会を創出しました。

② 障がいのある方が主役となる「自己肯定感向上・社会発信プロジェクト」

障がい福祉サービス利用者が「支援を受ける側」から「地域や他者を支える側（教える側）」へと役割を変える、意識改革型の事業を推進しました。

- **出張陶芸教室の開催：** 社会福祉法人青いりんごの会の利用者が主導となり、愛育学園の障がい児およびリデルライトホームの高齢者を対象とした「陶芸教室」を開催いたしました。教える側に立つことで利用者の自己肯定感向上や新たな生きがいの創出に繋がり、福祉の枠組みを超えた相互交流となりました。
- **障がい者アートプロジェクトと社会発信：** 利用者が描いた豊かで自由な色彩の絵を、シャツ、傘、ストールなどのプロダクト（商品）へと昇華させました。これらの作品は、熊本学園大学の学生と協働した「子飼商店街での魅力発信イベント」で展示・販売されたほか、現代美術館で開催した「Yuru カフェ（注文の間違いやミスをゆるく許し合うコンセプトカフェ）」の場でも一般市民へ広く披露されました。福祉に馴染みのない層へ「共生」の精神を自然な形で伝える、非常に有意義な活動となりました。

③ 災害時を見据えた「地域連携・防災力強化事業」

社会福祉連携推進業務の大きな柱である「災がい時における福祉サービスの継続および利用者の安全確保」に向け、実践的な訓練と教育を実施しました。

- **大規模災害訓練の実施（福祉車中泊支援の検証）：** 令和７年 11 月 28 日、リデルライトホームにおいて大規模災害訓練を実施しました。福祉避難所の立ち上げと同時に、近年重要視されている「車中泊（車中泊を希望する要配慮者）」の受け入れ、車中泊セットの提供・設営、支援内容の一連の流れを検証しました。福祉避難所と車中泊支援の連携は全国的にも課題が多く、当法人の検証データは今後の全国のモデルケースになると考えています。
- **大学との協働による災害講義・訓練：** 熊本学園大学との協働により、学生を交えた段ボールベッドや間仕切りの設営、避難所運営演習を実施しました。次世代の福祉・防災の担い手を育成する教育モデルとして、地域一体となった防災ネットワークを強固にしました。

④ 福祉の未来を創る「人財育成・採用・ＤＸ推進事業」

各法人の力を結集し、単独法人では投資や開催が難しい「質の高い研修」および「効果的な採用イベント」を共同で実施しました。

- **第１回 合同研修（意思決定支援）の開催：** 令和７年 10 月 25 日、外部講師を招聘し、リデルライト、おーさぁ、青いりんごの会、わくわくの４法人合同で「身体拘束廃止・虐待防止研修」を兼ねた研修会を開催（34 名参加)。義務付け研修の共同化によるコスト削減と、法人間の知見共有を同時に達成しました。
- **ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）勉強会の継続：** 「スマートケアプラットフォーム会議」のもと、定期的に「AI 研修会」「GAS（Google Apps Script）勉強会」「AppSheet 勉強会」を開催しました。業務効率化のツールを内製化できる人財を法人グループ内で育成し、最先端の「デジタル福祉」の土台を築いています。
- **第２回 オープンケアキッズの成功（子ども向け仕事体験）：** 令和８年３月８日、グランメッセ熊本にて、福祉・医療のこどもおしごと体験イベントを開催。定員 500 名に対し 2,500 名を超える応募があり、当日は 500 名以上の参加で大盛況となりました。医師、看護師、介護福祉士、保育士など９職種の体験を通じ、潜在的な福祉人財の育成と、業界のイメージアップに多大な貢献を果たしました。
- **就労継続支援Ｂ型事業所 おしごと体験会：** 特別支援学校の高校生や保護者を対象に、連携内の複数のＢ型事業所＋3 事業所の　6 事業所が集結した合同体験会をルーロ合志にて開催（令和７年 11 月 22 日)。進路選択の不安を解消する場を共同で提供し、利用者の確保とミスマッチ防止に繋げました。

4. 総括と次年度への展望（全国への普及に向けて）

令和７年度の活動を通じて、「社会福祉連携推進法人という仕組みを活用すれば、単独法人では成し得なかった規模の社会発信、ＤＸ、多分野の協働、そして強固な地域防災体制の構築が低コストかつハイスピードで実現できる」 のではないかと感じています。

現在、全国にはまだ３０数程度しかこの法人がありませんが、地方の福祉法人が生き残り、地域住民を守り続けるための一助になり得るのではないでしょうか。